

## データを活用し「交通空白」解消を目指す知事の会 設立趣意書

鉄道やバス、タクシー等の地域交通の確保は、買い物、医療、教育などの日常生活に不可欠であり、また、地域への来訪を促す観点からも極めて重要です。

近年、少子高齢化や人口減少、ドライバー等の担い手不足により、交通サービスの需要の減少や供給体制の弱体化が進むなど、地域公共交通を取り巻く環境は、厳しさを増しています。

現在、国の交通政策審議会では、「交通空白の解消」に向けた新たな制度的枠組みなどの議論が進められていますが、地域交通の「リ・デザイン」を迅速に進めるためには、日々刻々変化する状況を、地域公共交通計画などに速やかに反映することが必要です。特に計画の迅速な実行に当たっては、①実態を把握するデータの収集、②ダッシュボード化（可視化・分析）、③関係者間の共通理解などの観点から、交通サービスの利用実績や運行情報、事業情報に関するデータの活用が重要となります。

このため、地域交通の司令塔である地方公共団体や関係者が、より簡易にデータを収集し、かつ、データ保有者が安心して提供できる環境の整備を目指すとともに、各地域が抱える課題に対して、国とも連携しながら、地域の特性に応じた公共交通の新しい取組を進めるべきと考えます。

また、地域住民や観光客、交通事業者等の理解を幅広く得るためには、この取組の果実を享受できることが大切です。例えば、種々のデータを活用し、県境を超える広域移動を促進していくことなども考えられます。

そこで、私たちが目指すのは、単なる交通手段の提供ではない、地域をつなぎ、未来をつくる「公共交通」の実現です。都道府県の枠を超え、多くの知恵と力を結集し、地域の課題解決に向けたベストプラクティスの共有や情報発信に先んじて取り組むとともに、国に対して地方の実情を踏まえた課題解決に向けた提案等を行う、「データを活用し「交通空白」解消を目指す知事の会」を設立します。

この趣旨に賛同される知事の皆様におかれましては、是非とも研究会にご参加いただきたいと思います。地域公共交通の未来を共に切り拓くために、多くの知恵と力を結集し、持続可能な地域づくりに貢献していきましょう。

令和7年10月21日

(共同発起人)

静岡県知事 鈴木 康友

三重県知事 一見 勝之